

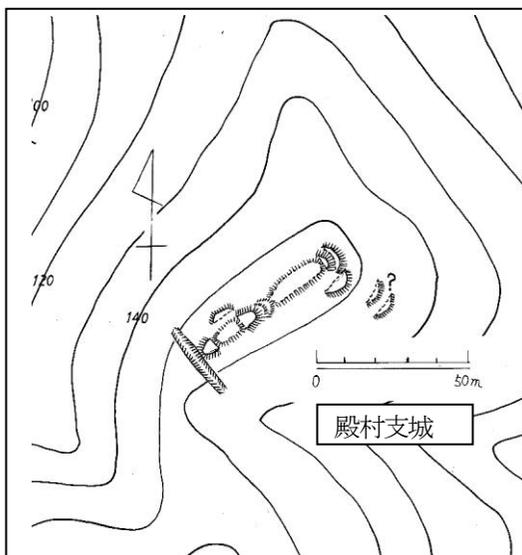
とのむらしじょう  
No.34 殿村支城

舞鶴市字与保呂小字生水他

- ・遺構—曲輪、堀切
- ・占地—尾根
- ・標高—150m
- ・比高—90m
- ・遺跡地図番号—449

この城は与保呂川を挟んで日向城に相対する尾根先に位置している。南方の殿村城より約70m低い。尾根続きを堀切で遮断し、長さ約50mの城域を確保している。曲輪の削平は不十分で自然地形が多く、縄張りにまとまりがない。

城主は殿村城との関わりで考える必要があり、近世の地誌類では、時岡源之丞などが上与保呂村の古城城主としてあげられている。



とのむらしじょう  
No.35 殿村城 (別名 上与保呂城)

舞鶴市字与保呂小字生水他

- ・遺構—曲輪、堀切、畝状空堀群
- ・占地—山頂
- ・標高—230m
- ・比高—170m
- ・遺跡地図番号—450

この城は殿村支城の南方に位置している。城跡からは舞鶴から綾部に越える菅坂峠が展望でき、与保呂谷から堂奥方面に通じる道も北方に見渡すことができる。曲輪の規模は東西の長さ約80mで、西側と北側の尾根にもそれぞれ二本の堀切がある。しかし堀切の間隔が不自然に広い点に疑問が残る。

北側の谷部の斜面に畝状空堀群の敷設が見られる点を除けば、堀切と曲輪の間に距離があることなどから、古いタイプの縄張りに属する。

城主は近世の地誌類では羽賀隠岐守、時岡源之丞あるいは両者の同居といわれるが、詳細は不明である。麓の殿村集落には時岡姓のお宅が数軒ある。

